

加藤分会長に出された強制転勤発令に対する抗議声明

11月22日、加藤正利分会長は勤務終了後に区長室に呼び込まれ、区長から大垣運輸区転勤への事前通知書を渡された。分会長を転勤させるということは、神領分会始まって以来のことである。明らかに神領分会の破壊であり、JR東海労に対する組織破壊攻撃である。

私たちは攻撃を跳ね返すために、今日11月29日に元神領分会事務所にて、不当な転勤を許さず、加藤分会長の悔しさを全体の力にして発令撤回に向け闘いを進めていくことを全組合員で意思統一した。

加藤分会長は、2002年4月、名古屋車掌区から神領運輸区発足のために転勤してきた。それ以前の神領電車区には車掌がいなかった。神領の地における車掌業務の先駆者であり、現在の神領運輸区の礎を作るために転勤し努力をしてきたのだ。以来11年間、昇進制度の変更があり、主任車掌にも昇進できない中で、汗をかき汗を拭き特急車掌として真面目な業務で、日々こつこつと仕事を積み重ねてきた。今年10月には効績章を受賞し「今まで経験してきたことをこれからの鉄道人生に活かして、定年までがんばる」と生涯中央線の車掌として働いていくことを公言し決意した時に出された発令なのである。

神領運輸区には大垣市から通勤している車掌もいる。西濃地区出身の車掌も多い中での転勤は不当以外のなにものでもない。どこに加藤分会長が転勤しなければならない理由があるのだ。転勤すればまた長時間にわたり見習いをしなければならず、年齢により物事に順応する能力も低下している。無駄使いと事故への危険度が増す転勤なのだ。会社は理由をはっきりとさせるべきだ。これだけの犠牲を払っても転勤して苦勞する者に対して理由を伝えるべきである。転勤の話聞いたユニオン組合員も「嫌がらせ以外考えられない」「びっくりした」「まさか」など囁いている。まさに不当極まりない転勤なのである。理由を問うても答えられないのは、組織破壊攻撃であり組織弱体化を狙ったものであるとは口が裂けてもいえるはずがないからである。

加藤分会長のこれまでの努力、希望を無視した転勤は強権的な力の行使である。組織破壊を目的とした攻撃には、組織の総力を持って反撃する。

私たちは仲間として加藤分会長の悔しさを共有する！

私たちは仲間として加藤分会長の怒りを共有する！

そして、私たちは仲間として分会長共に闘いを決意する！

以上、決議する。

2012年11月29日

JR東海労神領分会

加藤分会長不当配転緊急抗議集会